

恵那の農畜産物のブランド展開

■クリ・東美濃栗振興協議会

産地出荷量確保に向けて

東美濃栗振興協議会は、中津川市、恵那市のクリ生産者のうち、JAを通して共同出荷する組織で、約150名の生産者(個人、法人)が加入し、栽培面積は145ha、出荷量は120tである(R6実績)。産地としては、高齢化による栽培休止、クリの高樹齢化による収量減少、異常気象などにより、生産量が不安定になっていることが課題である。

農業普及課では、生産量を安定させるための方法の一つとして、長年クリの重要害虫であるモモノゴマダラノメイガのフェロモントラップ調査に基づく防除適期情報の提供を行ってきたが、今年度からクリイガアブラムシ、ネスジキノカワガなどの発生状況調査も開始した。その結果、これまで防除を行っていない時期に害虫の発生とその被害を確認したため、役員会や研修会で情報提供を行った。

今年度は害虫発生消長や被害状況の実態把握に留まったが、今後は次年度に向けて防除体系を見直すとともに、協議会員への情報提供を行い、クリ生産量の安定に向けた取り組みを行っていく。



【害虫発生状況調査】

(園芸産地支援第二係)